



経済成長と社会全体のサステナビリティの両立

日本近代資本主義の父、渋沢栄一

「日本近代資本主義の父」と呼ばれ、明治時代から昭和時代初期にかけて、約 500 の企業の立ち上げにかかわり、教育や福祉、文化といった約 600 の社会公共事業に尽力した渋沢栄一。日本初の銀行である現在のみずほ銀行をはじめ、JR 東日本、東京ガス、東京証券取引所、日本赤十字社といった幅広い分野の事業の育成に携わり、日本経済の基礎を築きました。また、渋沢は、1878 年に「東京商工会議所」を創立し、初代会頭を務めました。その背景には、「民の繁栄が、国の繁栄につながる」という渋沢の信念がありました。東京商工会議所は、この信念を受け継ぎ、商工業の発展、日本の発展のために活動を続けています。



東京商工会議所所蔵

「道徳経済合一説」と SDGs

「企業の目的が利潤の追求にあるとしても、その根底には道徳が必要であり、国ないしは人類全体の繁栄に対して責任を持たなければならない」（渋沢史料館館長・井上潤「渋沢栄一生誕 170 年を迎えて」『青淵』No.730）渋沢は生涯を通じて、経済発展の根底には道徳がなければならないという「道徳経済合一」を説きました。この経済成長と社会全体のサステナビリティ（持続可能性）を両立させるという渋沢の考え方は、まさに SDGs（持続可能な開発目標）そのものともいえます。

SDGs：2015 年 9 月に国連サミットで採択された SDGs は、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17 の目標・169 のターゲットから構成されています。SDGs では、気候変動や貧困問題といった課題を解決することももちろんですが、持続可能な経済成長を実現することを強調しています。

私たちが今すべきこと

世界には、貧困、飢餓、衛生、気候変動、生物多様性の損失といったさまざまな社会課題があります。SDGs では、各国政府や自治体、企業、NPO / NGO、教育機関など、すべてのステークホルダーが一体となって課題解決に取り組むことを求めています。これらは壮大な目標のように思えますが、私たちの行動一つひとつが積み重なって、大きな変化を生み出します。SDGs への関心の高まりとともに、消費者の価値観も、安さや品質だけではなく、その商品やサービスが環境や人権に配慮されたものかどうか、背景にあるストーリーまで重視するように変化してきました。企業はこうした変化を感じ取り、社会からの期待に応えることが必要です。私たちがすべきこと、その答えは eco 検定にあります。

挑みつづける、変わらぬ意志で。

eco検定

環境社会検定試験®

これまでのべ50万人が受験し、30万人のエコピープル[※]が誕生しています

※エコピープル = eco検定合格者

eco検定とSDGs

eco検定は、環境に幅広い知識を礎とし、環境問題に積極的に取り組む「人づくり」を目指しています。そして、それと同時に環境と経済を両立させた「持続可能な社会づくり」を目指しています。この「持続可能な社会づくり」と、SDGsが目指す方向性は同じといえるでしょう。ステークホルダーの環境意識の高まりを受け、企業のSDGsへの取り組みやESG投資が拡大している中、環境や社会と自社ビジネスの関係を的確に理解し、その知識を活かせる人材の育成は重要になってきています。

eco検定受験のメリット

- 1** 多様化・複雑化する環境問題を幅広く体系的に学べる
- 2** 企業イメージ向上
統合報告書やCSRレポートで対外的にアピールできる
- 3** 社員のレベルアップ
営業力強化、環境マインドの向上 等

試験概要

- 受験料** 5,500円
 - IBT(インターネット経由での試験)
※受験者のコンピュータで受験いただく方式です。
 - 受験資格**
 - 試験当日に置いて、日本国内に移住している方限ります。
 - 制限時間**
 - 90分 別に試験開始前に本人確認、説明等約20分
- ※CBT(テストセンターに設置されているPCでの試験)も実施しています。詳細はウェブサイトをご確認ください。

出題範囲

●公式テキストの知識とそれを理解したうえでの応用力を問います。基本的に公式テキストに準じますが、最近の時事問題についても出題します。

SDGsの17の目標のうち16をカバーしています!

主な出題内容

地球温暖化と脱炭素社会、エネルギー、生物多様性、自然共生社会、循環型社会、化学物質、企業の環境への取り組み

合格基準

●100点満点とし、70点をもって合格とします。



推進企業の声 東京ガス株式会社 代表執行役社長 内田 高史さん

今、世界は着実に持続可能な社会に向けて歩みを進めています。企業は、当社創立者でもある渋沢栄一の「論語と算盤」の思想にいま一度立ち返り、その事業活動を通じて社会課題の解決を図り、幅広くSDGsの達成に貢献していくべきであると考えています。eco検定は、持続可能な社会の実現のために必要な環境・社会に関する幅広い知識を体系的に学べる大変有益な検定試験です。東京ガスでも会社として受験を奨励・支援しており、多くの社員が資格を取得しています。今後もeco検定を通じて環境・社会の知識が豊富な人材を育成し、脱炭素をはじめとする社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。



推進企業一覧(敬省略・50音順、抜粋)

- | | | | |
|-------------|---------------|-------------|----------------|
| アクリーグ株式会社 | サンライズ株式会社 | 東急建設株式会社 | 生活協同組合パルシステム山梨 |
| 朝日工業株式会社 | 新東工業株式会社 | 東京ガス株式会社 | 丸三産業株式会社 |
| アズビル株式会社 | 株式会社スーパーホテル | 東芝エレベータ株式会社 | 三井不動産株式会社 |
| イオンモール株式会社 | スマートパートナー株式会社 | 東テック株式会社 | |
| 株式会社オーミヤ | 株式会社そごう・西武 | 南海電気鉄道株式会社 | |
| カネパッケージ株式会社 | 大和ハウス工業株式会社 | 株式会社萩原工業 | |

こちらからもご確認いただけます



eco検定アワードについて

eco検定合格者を「エコピープル」と呼称し、エコピープルが試験で得た知識をアクションにつなげていくための活動を行っています。そのひとつとして他の模範となる環境活動を実践したエコピープルおよび複数名のエコピープルからなるエコユニットの実績を称え、広く周知する「eco検定アワード」を実施しています。

東京商工会議所 検定センター

03-3989-0777 (土日祝・年末年始を除く 10時~18時)

<https://www.kentei.org/>